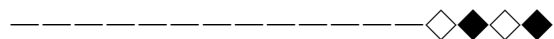


2026 年 1 月 9 日発行

JPCSA 通信 Vol.88 (新年号)



会員各位
一般社団法人日本ファームステイ協会
です。
いつも当協会の活動にご理解を頂き、
誠にありがとうございます。
農泊の最新情報をご案内致します。

◆新年のご挨拶

◆「社員総会、理事会・評議会、賛助
会員 報告会」開催のご報告

【農林水産省より】

◆「SAVOR JAPAN」として新たに
3 地域を認定

◆FARM STAY Japan のご案内



新年のご挨拶





福島県知事
一般社団法人日本ファームステイ協会
会長理事 内堀雅雄

皆様、新年あけましておめでとうございます。日頃から当協会の活動に御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の活動を振り返りますと、皆様の御協力の下、農泊の推進や課題解決のため、各地でのセミナー開催や事業サポートなど、様々な事業を引き続き進め、中でも、「農泊総合情報プラットフォーム」事業では、国内旅行者や訪日外国人旅行者に向けた農泊情報の統合的な発信に努めてまいりました。

今年は更に、地域協議会と旅行事業

者との団体旅行マッチングサイトの機能を実装し、農泊地域と旅行事業者が円滑に連携するための重要な基盤づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

また、昨年4月には、「食料・農業・農村基本法」に基づく「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定され、2029年度までに農泊地域での年間延べ宿泊数を1,200万人泊、農村地域における宿泊等の売上額を2,200億円とする目標を掲げ、多様な地域資源を活用した観光コンテンツの開発や、インターネット利用環境の整備等を通じた誘客促進等を図ることとしております。

当協会といたしましても、当該計画が掲げる目標の実現に向け、会員の皆様と連携しながら地域資源を活用し、農村への滞在機会を提供する事業を推進してまいります。

農泊は、それぞれの地域が持つ自然、歴史、文化等の資源を活かした高付加価値な旅のスタイルを提供する中核として、その役割がますます注目されております。

また、地域の魅力を深く体感できることから、二地域居住など新たなライフスタイルの試行の場としても有用性が高く、都市と地方を往来する「関係人口」の創出・定着にもつながるものと考えており、今年も農山漁村の所得向上、地域の活性化を目指して、農泊

推進に向けた多岐にわたる活動を展開してまいります。

結びに、2026 年も農泊事業に携わる皆様や支援事業者の皆様が、新しい農村のライフスタイルを創造し、明るい笑顔であふれる一年となることをお祈りいたしますとともに、皆様の御健勝、御発展を心からお祝い申し上げ、年頭のあいさつといたします。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



■ 理事長 皆川 芳嗣

明けましておめでとうございます。

2026年に、日本ファームステイ協会は10期目を迎えます。この間、

「『農泊』は地域課題解決のためのゲートウェイである」というミッションのもと、会員の皆様と活動とともにしてまいりました。農泊はコロナ禍の危機を乗り越え、農林水産省の計画を上回る推移を見せています。皆様の当協会の活動への御協力に、改めて御礼申し上げます。

農泊は従来のホームステイ型に加えて、別棟型、別荘型、古民家改修型、空き家改修型などバリエーションが増え、「高付加価値化」「滞在型」「体験型」へと“質的深化”が進んでいます。他方、昨年度は協会が支援する長崎県平戸市、宮城県蔵王山水苑地域が、それぞれ「アルベルゴ・ディフーズタウン」「オスピタリタ・ディフーズ」の認証を取得するなど、泊食を分離しつつ地域一体をホテルとみなすイタリア発祥の理念「アルベルゴ・ディフーズ」も広がりを見せています。

このように農泊は、質で勝負する第2フェーズに入り、今年はさらに加速していく年になると考えています。

本年も引き続き、会員、賛助会員の皆様と協働して「農泊」政策の推進をサポートし、地域課題の解決の一助を担えるよう、活動を推進してまいります。皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



■ 代表理事 上山康博

明けましておめでとうございます。

当協会の活動に対し、日頃から御指導、御鞭撻を頂き、深く感謝し、御礼申し上げます。

当協会が取り組む「農泊総合情報プラットフォーム」事業においては、国内外の旅行客に農泊施設を案内するウェブサイト「FARMSTAY Japan」を構築し、全国の農泊地域における多様な農泊施設、地域色豊かな食事、さまざまな体験メニューの統合的な情報発信を強力に推し進めてまいります。さらに今春、団体旅行誘致のための旅行事業者と農泊地域とのマッチングサイトを実装し、農泊地域や旅行事業者の皆

様にとって有益な情報共有の基盤となることを目指します。

訪日客全体はコロナ前を超え、力強い伸びを維持しています。しかし、地方の農泊地域への誘客は大都市圏ほど増加しておらず、旅行受入の情報不足やインバウンドニーズとのミスマッチなどの課題があります。この「需要はあるのに届けられていない」状況を打開すべく、「FARMSTAY Japan」に会員・賛助会員の皆様が持つ貴重な情報を集約・発信し、「量」と「質」の両面を同時に追求していきます。

本年も、「農泊」推進のための基盤整備を進めていく所存です。皆様からの御意見、御要望を頂戴しつつ、当協会活動の発展に努めてまいります。引き続き御支援と御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

◆◆・・・・・・・・・・・・・・・・
第 9 期上期の社員総会を開催
・・・・・・・・・・・・・・・・◆◆

昨年末 12 月 18 日、第 9 期上期の社員総会、理事会・評議会、および賛助会員報告会を開催、社員、理事、監事、評議員、顧問、賛助会員ら 36 名が出席いたしました。理事会・評議会に広瀬建農林水産大臣政務官にご出席いただき、ご挨拶を頂戴いたしました。

上期の活動報告では、専門家派遣、品質認証、アルベルゴ・ディフーズ認証サポート、住宅宿泊管理業登録実務講習、保険商品販売の各事業進捗を報

告。さらに、第 10 期に向けて、農泊総合情報プラットフォーム「FARM STAY Japan」を情報発信のハブとして活用すること、地域課題である二次交通対策や空き家問題についても支援していくことを確認しました。

賛助会員報告会では、皆川芳嗣理事長より、農業地域発展部会視察団でのウズベキスタン視察についてご報告いただきました。

また、会員交流会には 27 名にご参加頂き、農泊を通じた事業展開などについて会員相互に活発な意見交換がなされました。

(第 16 回理事会・評議会の様子)





広瀬建農林水産大臣政務官

(第 14 回賛助会員報告会の様子)



◆◆・・・・・・・・・・・・・・・・

「SAVOR JAPAN」として新たに
3 地域を認定/農水省

・・・・・・・・・・・・・・・・◆◆

農林水産省は 12 月 19 日、インバウンド需要を農山漁村に呼び込むことを目的に創設した「SAVOR JAPAN (セイバージャパン)」について、令和 7

年度は新たに 3 地域を認定しました。

今回認定された地域は、山梨県笛吹市（笛吹市農泊観光ツーリズム推進協議会）、兵庫県宝塚市（株式会社エフエム宝塚）、奈良県明日香村（一般社団法人大和飛鳥ニューツーリズム）の3地域となっています。

詳細は以下 HP より

<https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/wasyoku/251219.html>

農泊情報発信 Web サイト

『FARM STAY Japan 』 に団体旅行のマッチング機能を追加します。

事前登録受付中



日本ファームステイ協会が運営する
農泊情報を集約した国内唯一の情報サ
イトです。

→ <https://farmstay-japan.jp/>

○農泊地域と旅行事業者の団体旅行情報のマッチング機能を3月リリース！
○農泊地域情報の事前登録を受付中です。情報掲載は無料！登録は以下のお問い合わせから

<https://farmstay-japan.jp/inquiry>

「登録希望」以下を記載ください。

- ① 協議会名（施設の場合は施設名）
- ② 担当者氏名
- ③ 連絡先（住所、電話、メルアド）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝

発行：

一般社団法人日本ファームステイ協会事務局

〒101-0021

東京都千代田区外神田 2-17-2

（TEL：03-3526-2493 / FAX：03-3526-2494 ）

本会 WEB サイトは[こちら](#)

問い合わせ先 E-mail は[こちら](#)

＝＝＝＝＝＝＝＝＝